

Doubly stochastic matrices と Farkas の lemma について

東大 飯養 新 録 文 2 性

$E = \mathbb{R}^n$ とし E のベクトル $a = (a_i)$, $b = (b_i)$ の
間に Hardy-Littlewood-Polya の " $a \succ b$ " を

$$\sum_{i=1}^k a_i^* \geq \sum_{i=1}^k b_i^* \quad (k=1, \dots, n-1),$$
$$\sum_{i=1}^n a_i^* = \sum_{i=1}^n b_i^*$$

により定義する。ここで a_i^* , b_i^* は a_i , b_i を夫々
大きいものから順次ならびかえたものである。また n 次正

方形行列 $T = (t_{ik})$ が doubly stochastic とは

$$t_{ik} \geq 0 \quad (1 \leq i, k \leq n)$$

$$\sum_{k=1}^n t_{ik} = 1 \quad (1 \leq i \leq n)$$

$$\sum_{i=1}^n t_{ik} = 1 \quad (1 \leq k \leq n)$$

とする。以下 doubly stochastic な行列の全体の
集合を \mathcal{D} とする。このとき次の結果はよく知られている。

$$I \quad \exists T \in \mathcal{D}, \quad Ta = b \iff a \succ b$$

$$\text{II} \quad T \in \mathcal{D} \iff \forall a_i \in E, T a_i \prec a_i$$

I, II の中間階階といふ次の問題がある。

問題1 $a_i \succ b_i$ ($i=1, \dots, k$) が成り立つとき
 $T a_i = b_i$ ($i=1, \dots, k$) となる $T \in \mathcal{D}$ が存在

するか?

問題2 E の部分空間 F で定義された E の中への線型
 写像 T で $T a_i \prec a_i$ ($a_i \in F$) を満たすものを E 全
 体に doubly stochastic に extend できるか?

上の問題に対してそれぞれ別の反例は下に示すものである。

反例1 $E = \mathbb{R}^3$ とし

$$a_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad b_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

$$a_2 = \begin{pmatrix} \frac{2}{3} \\ \frac{1}{3} \\ 0 \end{pmatrix}, \quad b_2 = \begin{pmatrix} \frac{1}{3} \\ \frac{2}{3} \\ 0 \end{pmatrix}$$

反例2 $E = \mathbb{R}^4$ $F = \{ (x_i); x_1 = \frac{x_2}{2} + \frac{x_3}{3} + \frac{x_4}{6} \}$ とし

T は F の基底 a_i ($1 \leq i \leq 3$) による次の形に決めるべき線型写像とする。

$$a_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad T a_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$$

$$a_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 3 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad T a_2 = \begin{pmatrix} \frac{4}{3} \\ \frac{4}{3} \\ 0 \\ \frac{4}{3} \end{pmatrix}$$

$$a_3 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \\ 6 \end{pmatrix}, \quad T a_3 = \begin{pmatrix} \frac{1}{3} \\ \frac{1}{3} \\ 3 \\ \frac{19}{3} \end{pmatrix}$$

反例 2 の " 問題 2 の反例になる " とは下の定理 1 より正
ちにおかす。 よって問題 2 のかわりに次の問題を考える。

問題 3 E の部分空間 F で定義された E の中への線型
写像 T が $T a < a (a \in F)$ となるものが \mathbb{D} の元
extend 出来る 必要十分な条件は存在か?

この解答は次の定理 1 により与えられた。

定理 1 $E = \mathbb{R}^n$ とし F を E の部分空間 $T: F \rightarrow \mathbb{R}$ (
constant 1 のベクトル) とする。更に $T x < x (x \in F)$ が
なりたつとき T を \mathbb{D} の元 extend 出来る 条件は F に
属する任意の n 個のベクトル c_1, \dots, c_n に対して

$$T(c_1, \dots, c_n) \leq T(Tc_1, \dots, Tc_n) \dots \star$$

がなりたつことである。

$$\text{ここに } a = (a_i), \quad b = (b_i) \text{ に対して}$$

$$T(a) = a_1 + \dots + a_n$$

$$a \wedge b = (\text{Min}(a_i, b_i)) \text{ とする。}$$

一般に n 次元 \mathbb{R}^n に対して 次の性質がなりた
つことは容易に証明出来る。

$$[A] \quad a_1 > \|b\| \iff \begin{cases} \text{任意の実数 } \alpha \text{ に対し} \\ \|\alpha \mathbb{1} + a\|_1 \geq \|\alpha \mathbb{1} + b\|_1, \\ \|\alpha \mathbb{1} + a\|_\infty \geq \|\alpha \mathbb{1} + b\|_\infty \end{cases}$$

$$[B] \quad T \in \mathcal{D} \iff T\mathbb{1} = \mathbb{1}, \quad \|T\|_\infty = \|T\|_1 = 1$$

$\|a\|_1, \|a\|_\infty$ はベクトル a の l_1 及 l_∞ ノルムとし, $\|T\|_1, \|T\|_\infty$ は T の l_1 及 l_∞ ノルムとする。これを考えると上の定理 1 は E の部分空間 $F(\ni \mathbb{1})$ で定義された線型写像 T が $T\mathbb{1} = \mathbb{1}$ であり且 $\|T\|_1, \|T\|_\infty$ で contraction のものを条件まで同一性質を保持して extend 出来る条件を与えることとなる。

北大の守藤氏のレキにより上の定理は次の定理の系となることがわかった。(証明は容易である。)

定理 2. $E = \mathbb{R}^n$ とし E の部分空間 F で定義された E の中の線型写像 T が positive 且 $\tau(Tx) = \tau(x)$ ($x \in E$) の性質を満足する様に extend 出来る条件は上の \star である。

Remark. 上の定理の系として F が E の sub-lattice のときは上の extension が \rightarrow ねに可能なることがわかった。

定理の証明には次の Minkowsky - Farkas の lemma をつかう。

Lemma (Minkowsky - Farkas)

A を (m, n) 行列 x を n 次元ベクトル, b を m 次元ベクトル b' を m 次元行ベクトルとすると

$Ax = b$ が $x \geq 0$ とする解をもつ条件は

$$b' A \geq 0' \iff b' b \geq 0 \quad \text{である。}$$

定理2 の証明

F の基底として a_1, \dots, a_s をとる。 T を doubly stochastic 行列 $\tilde{T} = (t_1, \dots, t_n)$ に extend 出来るとし、 $T a_j = b_j$ ($1 \leq j \leq s$) とする。 \tilde{T} の存在するための条件は次の形にかけらる

$$\begin{pmatrix} a_{11} I & a_{21} I & \dots & a_{n1} I \\ a_{12} I & a_{22} I & \dots & a_{n2} I \\ \dots & \dots & \dots & \dots \\ a_{1s} I & a_{2s} I & \dots & a_{ns} I \\ \mathbb{1}' & 0' & \dots & 0' \\ 0' & \mathbb{1}' & \dots & 0' \\ \dots & \dots & \dots & \dots \\ 0' & 0' & \dots & \mathbb{1}' \end{pmatrix} \begin{pmatrix} t_1 \\ t_2 \\ \vdots \\ t_n \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ \vdots \\ b_s \\ \mathbb{1} \end{pmatrix}$$

上の方程式が $t_1, \dots, t_n \geq 0$ とする解をもつ条件を
おねがいはよいことにする。

すなわち I は $n \times n$ 単位行列とし

$$a_j = \begin{pmatrix} a_{1j} \\ \vdots \\ a_{nj} \end{pmatrix}, \quad b_j = \begin{pmatrix} b_{1j} \\ \vdots \\ b_{nj} \end{pmatrix}, \quad \mathbb{1} = \begin{pmatrix} 1 \\ \vdots \\ 1 \end{pmatrix}, \quad 0 = \begin{pmatrix} 0 \\ \vdots \\ 0 \end{pmatrix} \quad \text{とする。}$$

Farkas's lemmaにより上の条件は

$$(p_1', \dots, p_s', p') A \geq 0 \quad (1)$$

$$\Rightarrow (p_1', \dots, p_s', p') \begin{pmatrix} b_1 \\ \vdots \\ b_s \\ \underline{1} \end{pmatrix} \geq 0 \quad (2)$$

ここに $p_j' = (p_{j1}, \dots, p_{jn}) \quad (1 \leq j \leq s)$

$p' = (p_1, \dots, p_n)$ とする

(1)の左辺の $(i-1)n + j$ 列目の要素から

$$p_{1j} a_{i1} + p_{2j} a_{i2} + \dots + p_{sj} a_{is} + p_i \geq 0$$

$$p_{1j} a_{i1} + p_{2j} a_{i2} + \dots + p_{sj} a_{is} \geq -p_i \quad \left(\begin{matrix} 1 \leq i \leq n \\ 1 \leq j \leq s \end{matrix} \right)$$

$$p_{1j} a_{11} + p_{2j} a_{12} + \dots + p_{sj} a_{1s} = c_j \quad (1 \leq j \leq n) \text{ とおく}$$

$$c_j \geq -p \quad (1 \leq j \leq n) \quad (3)$$

(2)は $\sum_{\substack{1 \leq i \leq s \\ 1 \leq j \leq n}} p_{ij} b_{ji} \geq -(p_1 + \dots + p_n)$ となり

次の形に在る

$$\sum_{j=1}^n (Tc_j)^{(j)} \geq \tau(-p) \quad (4)$$

ここに \wedge 行列 $a_i = \begin{pmatrix} a_{i1} \\ a_{i2} \\ \vdots \\ a_{in} \end{pmatrix}$ に對し $a_i^{(j)} = a_{ij}$ とする。

$(Tc_j)^{(j)} \geq (Tc_1 \wedge \dots \wedge Tc_n)^{(j)}$ から \star が十分条件で

必要とは直ちにわかる。必要条件に在ることは

$$P = - (C_{11} \dots C_{nn}) \text{ とし}$$

$$(TC_{11} \dots TC_{nn})^{(j)} = TC_{k(j)} \text{ とした } k(j) \text{ をえらび}$$

$C_{k(1)}, \dots, C_{k(n)}$ に対し (4) を考えれば 得がえ
られる。

尚上の定理の至として $a_1 > 1b \Rightarrow \exists T \in D \quad Ta = 1b$ の
別証が与えられる。

此大の予備氏は上の結果を確率空間の L_1, L_∞ 等にあ
ける operator に拡張された。

参 考 文 献

[1] Mirsky, L., Results and problems in the
theory of doubly stochastic matrices. Z. Wahr. 1
(1963), 319-334.

[2] 三階堂 副包, 経済学の方法の数理的教養. 経済学
研究 21-22 (1961)